

土森委員長 | ただいまから、議員定数問題等調査特別委員会を始めます。
 本日は、議員定数問題等に関する検討課題等について御協議願うため、お集まりをいただきました。
 それでは、お手元の協議事項の順に進めてまいりたいので、御協力願います。

1. 議員定数問題等に関する検討課題

土森委員長 | 最初に、資料1の議員定数問題等に関する検討課題についてであります。
 このことについては、前回の委員会において、検討課題の1「議員定数」及び2「選挙区」についてはそれぞれ意見が出されましたので、各会派の意見として整理しております。

また、11月29日には高岡郡選挙区におきまして首長等との意見交換会を実施したところであり、資料2は、その際の首長等の主な意見について整理したものでありますので、適宜御参考に願います。

本日は、資料1の検討課題について、4「市の区域の任意合区」から順次御協議願いたいと思います。

まず、4「市の区域の任意合区」についてであります。

この件につきましては、室戸市、安芸市、土佐清水市が対象となりますが、前回10月19日の委員会におきまして、特に合区するとの御意見はございませんでしたので、それぞれ現行どおりということで、いかがでございましょうか。

塚地委員 | 前段の議論は全体のことでございまして、その中で私たちは、全体の見直し、1人区を削減することができないかという大枠のお願いをさせていただきました。それに基づいて議論をさせていただきたいと。

4の項目について具体的な意見がなかったということではありませんので、ここで意見を述べさせていただきたいと思います。

土森委員長 | どんな意見がありましたかね。なかったと思うけれど。

塚地委員 | 各項目ごとというよりも、その前段で、1人区をどう減らすかという問題意識で全体を見直してほしいということで話がとどまったので、後の具体的意見は述べなかったということとございまして、それぞれに意見がないわけではございません。

土森委員長 | 例えばどういう意見が。

塚地委員 | 先だつての高岡郡選挙区の首長さんの御意見も大変参考にさせていただくことができました。単純に高岡郡選挙区をどうするかということにとどまらない御意見だったと思っております。

中土佐町も、候補者が絞られる状況の選挙のあり方はどうかと、1人区をふやすこともいかがかと思うということで、高岡郡選挙区については現行どおりという御意見もいただきました。梶原町も、1人区をなくす方向で見直してほしいという御意見。津野町も、選挙区については全体を見直すべきではないか。四万十町も、1人区の解消は必要という、それぞれ1人区についての問題点を指摘された御意見が出されたなと思います。その点は、無視できない大事な視点だと思っております。

それに基づいて、4の項目を検討する必要があるのではないかなと思っております。市の部分でいうと、室戸市、安芸市、土佐清水市が1人区です。それぞれの1人区を解消して、一定の合区も含めて複数区にするという検討をぜひいただけないかということです。

近隣のエリアが、例えば室戸市でしたら、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村が今1つの選挙区になっていますけれども、ここと合区するというのも検討できるのではないかなと思っております。安芸市・芸西村のほうと合区するかどう

かというのは検討の余地があるかとは思いますが、

面積的に見ても、例えば室戸市・東洋町選挙区が 322 平方キロメートルです。それと、奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村選挙区を足しても、これは 780 平方キロメートルになるかなというところで、長岡郡・土佐郡選挙区に匹敵するぐらいの面積になると思いますので、今でもできない広さではないという面積要件も考えた場合、適切な合区を行って 1 人区を解消するという方向の検討をぜひ行っていただきたいという提案をさせていただきます。

土森委員長

ただいま、塚地委員の考えが述べられました。
そのほか、いろいろな意見を持っている方もいると思います。

弘田委員

室戸市の話が出ましたので。
1 人区ということなのですが、私たちが 1 人区でやっています一番困るのは、広さなのです。
例えば、この夏の参議院議員選挙で、それぞれの候補者の皆さんも、合区解消ということをお約束に上げられたと思います。それはどういうことかということ、地域の人の声を聞けなくなるということです。
実際、何回も言うのですが、選挙活動だけではなく、普段、地域に入って行って演説をして、畑に座っているおじちゃんおばちゃんとかそういった方々と話をします。それができなくなります。それができないということは、地域の声を県政につなげるということができなくなります。
ですから我々は、適当な広さは、余り大きくてはいけないのではないかとずっと話をしています。
何回も言わせてもらっていますけれども、この私の選挙区の 322 平方キロメートルで精一杯ですが、例えば高知市は 309 平方キロメートルで、人口が多いからたくさん議員がいるということですよ。議員数が多いから当たれるということですよ。
もし面積が広がって 2 人になったら、流域での文化の違いとかいろいろあるので割らなくてはいけないという高岡郡選挙区と同じようなことがまた起こってきますので、私は、今の区割りも長く続いてきた制度でもあるし、大きくつくべきではないと思います。自分自身のことを考えると、私が中芸へ行ったりということは、なかなか頭の中で想像できないのですよ。
ですから、1 人区の問題はあるのですが、面積をふやすのは適当ではないのではないかという意見です。

依光委員

私も 1 人区ということ。
うちは合併して、物部村、香北町も含めて相当広がっています。
自分が香美市選挙区に 1 人ということが住民にとってもわかりやすいということがあって、自分が担当というようなことで物部の奥まで行くのですが、これが広がったときに自分自身はやはり大変だなと。
うちは特殊要因として議員 1 人当たり人口も一番多いということなので、1 人区は絶対にだめということになると、高知県全体が相当いびつになってくるような気はします。
うちは旧香美郡ということで香南市と一緒にあったわけですが、定数 3 人に合区すると、高知県全体でバランスが悪くなって、首長さんのお話の中でもバランスをとれる県議会のあり方ということがあったので、そこら辺を慎重にやらないと難しい問題が出てくるのではないかと思います。

池脇委員

今の人口の分布状況では、現行の議員の定数、配置というのは適正であると思っています。

ただ、心配なのは、10年後、20年後となったとき、郡部でかなり人口が減ってきますよね。そうしたときに、郡部の代表者を出せないということが出てきますよね。だから、そういう部分も想定した上で、今、定数が37人ですけど、20年後人口が減ってもその地域から代表者を出せるような仕組みづくりは、今の段階で少し検討もしておいてもいいのではないかなと思うのですね。

そうしておかないと、毎回4年ごとに、こういうことを議論していくことになると思うのですよ。けれど、想定される問題というのは今現在でわかっているわけですから、その部分も踏まえての議論をしておけば。確かに、積み上げの議論も大事なのですけれど。

高知県は確実に過疎地域がふえてきている。そこの住民の声を県政にしっかり反映していくということは、重要な課題になってきます。その課題にどう応えていくのかということで、定数の問題と区割りの問題は非常に重要になってくるのだろうと思います。

塚地委員のおっしゃる1人区をある程度解消するという意見も理解はできるのですけれど、今回については高岡郡選挙区をどうするかというところで。後のところは現状のままであっても、それほど問題があるとは思っておりません。まだ継続ができる状況にあるだろうという認識をしております。

ただ、先ほど言ったみたいに、先のことを考えたとき、そこら辺の基本的な考え方をつくっておくことが大事ではないかなというふうには思います。

大野委員

先ほど依光委員がおっしゃっていたように、バランスが大事だろうと思います。今回の場合、面積のバランスもあるし人口のバランスということも考えなければならぬと思います。

ただ自分が思うのは、前回の委員会で、1人区を解消するような選挙区の見直しをするというのがあって、今の分区ではまた新たに1人区をつくってしまうという状況ができるので、ちょっとそれは危惧しています。

それともう一つは、第三者の意見を聞き、住民の生活に即したということで、首長の意見だけでいけるのかなというのは危惧しているところではあります。

土森委員長

それぞれ意見が出たようですが、私は、委員会が始まる冒頭に、前回の報告を受け、それに対してどういう思いがあるかということをお述べさせていただきました。そのときに、現行の選挙区をベースにして考えていくということをおしなないとなかなか前に進まないということも述べさせていただきました。そのことに対しては異論はなかったわけで。

その上で、ゼロベースの議論をという意見があった、これに対して前回は委員としておられた池脇委員から、いかに地域の人たちの声を県政にしっかり反映するかということも踏まえて定数も考えるという意味のものであったという、このとおりだと思いますね。その意味でのゼロベースからの見直しというのが基本になってくると思います。

例えば、塚地委員は、あくまで1人区を解消せよという意見。他の委員は、とにかく今の現行制度を中心に、1人区も必要ではないかと。地域性の問題、人口の問題等々の意見が出たわけです。

この辺で整理していきたいと思いますが、もう1会派の方が意見を述べておりませんので。

野町委員

確かに、高岡郡の首長の皆さんの御意見にも1人区解消がありました。

ただ、私も1人区なのですけれども、弘田委員、依光委員が言われましたように、私も今ずっと管内を回っておりますけれども、なかなか広いなと感じています。

合区をして複数区にすれば、1人の政治家の活動の範囲としてはより広がると思います。声を拾えるということだと思いますと、ちょっと後退するのではないかなと

- いうことを実感しながら活動しているというところですので、できましたら現行の選挙区をベースに考えていただきたいです。
- 土森委員長 段々の意見が、1人区については必要である、残しておくべきだと。この理由としては、面積の問題、地域性の問題、そして県民の皆さんの意見を詳細に聞く、それを政治に反映させるということです。
塚地委員の意見もあるわけですが、塚地委員のところは前からそういう意見であったわけですね。
この辺で整理したいと思います。
それでは、冒頭に述べさせていただきましたように、室戸市、安芸市、土佐清水市については、それぞれ現行どおりということで、よろしいですか。
- (異議なし)
- 土森委員長 それでは、室戸市・東洋町選挙区、安芸市・芸西村選挙区及び土佐清水市選挙区については、それぞれ現行どおりということで、決まりました。
- 塚地委員 最終的な結論に対する採決みたいになるのですかね。
私は今これに納得したわけではないので。
皆さんの御意見はわかりましたが、その御意見に同調したわけではないということは、お伝えしておきます。
- 土森委員長 最後にしめるときに採決することになりますので。
- 塚地委員 こういう意見もありましたということも書いてくださるということで、よろしくをお願いします。
- 土森委員長 書くかどうかは、皆さんの意見を聞いた上で。
- 塚地委員 はい。
- 土森委員長 それでは、次に、5「町村の区域の単独選挙区」についてであります。
この件につきましては、黒潮町選挙区が対象となりますが、前回10月19日の委員会におきましても特に合区するとの御意見はございませんでしたが、現行どおりということで、いかがでしょうか。
- 大野委員 これも、先ほどの1人区を解消するような選挙区の見直しということにつながっていくかもしれないのですけれども。
高岡郡選挙区の分区と関連して考えた場合、例えば、四万十町の人口は1万7千人ぐらいいるのに、黒潮町は1万2千人足らずで定数1人というのはどうかなという話もあつたりするのですよね。
そういうところもあつて、分区するにしても、隣接する町村とか全体を含めた考え方でいかないと、高岡郡選挙区だけの分区でいくと無理があるのではないかと。仁淀川筋にしても、例えば生活圏域でいくと、仁淀川町、越知町、佐川町ということがベースにあつたり、高吾北の広域事務組合もあつたりしますので、単純に高岡郡選挙区を分けるというだけの議論をしてしまうと。近隣のところも関連してくるのかなというところがあります。
そこは、慎重に議論をしていく必要があるのではないかなというのがあります。
- 土森委員長 今、高岡郡選挙区の話が出ました。

- 首長さんの御意見も聞いてきたのですが、今大野委員が言われたようなことも含んでおりますので、高岡郡選挙区のことについては、きょうは判断せずに後日判断していくことにしてはと思います。
- 今、黒潮町の話からこうなってきたわけではありますが。
- 塚地委員 私も、黒潮町の1町に1県議ということが、客観的に見てどうかという意見は結構あると思うのです。それで、高岡郡選挙区の分区問題も含めて黒潮町の問題を考えたかどうかという意見には賛成です。
- やはり、仁淀川町をどうするか。この間、首長さんから御意見が出されていましたが、川筋でいうと仁淀川町をどうするかという問題も残っています。分けるとしても仁淀川町をどうするか。また、奥四万十のことなんかも含めて、黒潮町をどうするかというのは、課題として残るのではないかと思うので、そこを一体的に議論をされるようにしたらどうかと思います。
- 土森委員長 以前、四万十市と黒潮町を同一選挙区という議論もあったと思いますが、私の選挙区と関係してきますので。
- このときの議論は、ちょうど西土佐村と中村市が合併して面積が広がった、この上で黒潮町と一緒にするということが、高岡郡選挙区に匹敵するくらいの面積になるのではないかと。それとあわせて、東日本大震災がきました。そういうこともあり、黒潮町と四万十市が同じ選挙区となった場合には黒潮町出身の議員がいなくなる可能性もあるという心配もあり、試算を見ますと0.5を割っていないということもあり、前回は1選挙区にしてはどうかということで結論を得たと私は思っております。津波高34.4メートルということを知ったときに、大西町長は顔の色が真っ青になっていました。
- そういうことも含めながら、地域性ということもあるし、地域の課題性ということも念頭に置いて考えておく必要があるというふうに思いますね。
- 県議会と市町村の連携というのは県議の大事な仕事であるという意見もあつたりしております。選挙区ということですから、そういうところも考えてあげないといけないと思います。住民の意見ということも大切です。
- そういうことを、意見として言わせていただきたいと思います。
- ほかに、黒潮町のことについて何かありますか。
- 弘田委員 黒潮町選挙区は町村の合併で1つの町の選挙区になりました。今の状況で見れば単独なのですが、面積を見ても、四万十市とくっくつとしたら、先ほど委員長が言われたとおりものすごく大きくなってしまいます。
- 私は、地域性もあるし、地域の意見を吸い上げて県につなげるという意味でも、今回は現行どおりがいいと思います。
- 土森委員長 野町委員の会派には黒潮町選挙区の議員がいるね。
- 野町委員 そうですね。
- 先ほど委員長もおっしゃられたように非常に大きな課題があつて、県、国との連携が必要だと。
- どこと合区になるかという問題はありますが、もし四万十市とということになると非常に広がるということもあるので、やはり今回については、現行のまままでと思います。
- 三石委員 私も幡多に関係のある人間ということで。
- 委員長も言われたように、黒潮町はそういう課題もあるし、四万十市とひっくつけば、ものすごく広くもなるし、現状のままにさせていただいたらありがたいなと思

- ます。
- 大野委員 補足で。
自分の意見としては、1人区を解消していくという大きな流れの中で言うのであれば、高岡郡選挙区の中の例えば四万十町と黒潮町とで2人区をつくるかということも考えられるのではないかなということですが。
そうしたら、片方の高岡郡も2人区になって、お互いが1人区を解消できるしという意味もあってお話をさせていただきました。
- 土森委員長 高岡郡選挙区を分区した場合に、黒潮町をひっつけるという意見か。
- 大野委員 そうしたら、両方が複数区になれるというイメージです。
- 土森委員長 会派の意見がそれぞれ出ました。
1人区で黒潮町を残せという意見、それから高岡郡選挙区分区の場合の分区の仕方等々の意見も出ました。
きょうは会派に持ち帰って。
- 池脇委員 そういう話であれば、ある意味、面積の緩和ということも考えるのであれば、高岡郡選挙区、吾川郡選挙区、黒潮町選挙区の3つを対象にして検討するというのも1つの議論かとは思いますが。
- 土森委員長 御意見いろいろあると思いますが、会派に持ち帰っていただいて、次回の委員会では決めていくということにしますか。

(異議なし)
- 土森委員長 それでは、このことについては、会派で検討した上で、次回の委員会で協議して決定していくということにしたいと思います。
次に、6「衆議院小選挙区特例」についてでございます。
この件につきましては、高知市選挙区が対象となりますが、これまでに公職選挙法第15条第5項の規定による分区は行わないという結論を得ておりますので、現行どおりということで、問題ありません。

(異議なし)
- 土森委員長 それでは、さよう決めます。
次に、7「ただし書きの適用」でございます。
この件につきましては、現行では、総定数37人に対して高知市選挙区は、17人になるところを15人に、宿毛市・大月町・三原村選挙区及び吾川郡選挙区は、1人になるところを2人にしております。
ただし書きの適用については、最終的には、総定数や各選挙区と合わせて結論を出していくこととなりますが、前回10月19日の委員会におきまして、特に御意見はございませんでしたので、方向性としては現行どおりということだと思っておりますが、いかがでしょうか。
- 塚地委員 ここの部分は、最終結論にしたらどうでしょうね。
先ほどの議論も、高岡郡選挙区も含めて全体像が見えてきて、最後にどういうただし書きの適用にするかという議論にしたほうがよろしいのではないかと思いますけれども。

H28. 12. 22 議員定数問題等調査特別委員会

- 土森委員長 高知市を現行どおり 15 に据え置くと、ここまでは決めておいていいですか。
- (「異議なし」という声あり)
- 塚地委員 そこは、そう。
- 土森委員長 その配分をどこにするかということは、後で決めると。
- 塚地委員 その分は、どういうふうになっていくかはまだ決まっていないので。どういう数になるかわからないので。それは持ち越しということで。
- 土森委員長 委員会としては、15 にした場合には、宿毛市・大月町・三原村選挙区と吾川郡選挙区に 1 人ずつ割り振るといった意見も出たということも踏まえて、次回に回すということでもいいですか。
- 塚地委員 はい。
- 土森委員長 これも、次回の委員会で、各会派に持ち帰って出された意見から結論を出すということでもいいですね。
- 塚地委員 高岡郡選挙区をどうするかを皆さん持ち帰るのではないですか。黒潮町、吾川郡とね。その結論が出されてから。
- 土森委員長 意見を持ってきてもらって、結論を得ると。いいですね。
- 塚地委員 はい。
- 土森委員長 それでは、本日いろいろな御意見が出ましたので、後ほど事務局でまとめ、今後の委員会で具体的な検討に入ることにしたいと思います。
- それでいいですか。ほとんど決まるということになりますけれども。
- 塚地委員 そんなこと言うものではありませんよ。
- 土森委員長 最後に、次回の委員会開催日についてであります。
- お手元に日程表をお配りしてありますので、御参考に願います。
- 1 月 26 日、27 日、30 日の 3 日間で調整したいと思っておりますが、いかがでしょうか。
- 会派の日程等もあるでしょうが。
- 塚地委員 会派で議論する日程が。
- なるべく遅目ありがたいので、今おっしゃったのであれば、30 日。
- 土森委員長 30 日でもいいですか。
- (異議なし)
- 土森委員長 それでは、1 月 30 日午前 10 時から委員会を開催します。

2. その他

土森委員長

最後に、何かほかにありますか。

(な し)

土森委員長

それでは、協議事項は以上であります。
今日出た意見を会派に持ち帰って協議し、次の委員会に持ってきていただいて、それで決めるということにしたいと思いますので、しっかり議論をして持ってきていただきたいと思います。
それでは、本日の議員定数問題等調査特別委員会を終わります。